

6. むすび

地震調査研究推進本部（以下、「地震本部」という。）では、平成 17 年 8 月に策定した「今後の重点的調査観測について（―活断層で発生する地震及び海溝型地震を対象とした重点的調査観測、活断層の今後の基盤的調査観測の進め方―）」に基づき、活断層帯の重点的な調査観測を推進している。さらに、地震本部では、平成 21 年 4 月に策定し、平成 25 年 3 月に改訂した「新たな活断層調査について」において、必要とされる活断層調査に関する基本方針や実施方法等についてとりまとめるとともに、重点的調査観測の対象候補となる活断層帯を明記している。この選定基準に該当する三浦半島断層群（主部／武山断層帯）の重点的な調査観測（以下、本調査観測）を実施した。

本調査観測では、対象断層帯の長期評価、強震動評価の課題を踏まえ、本断層帯における地震規模及び長期的な発生時期の予測精度の高度化、周辺断層帯及びメガスラストとの関係、強震動の予測精度の高度化等を目指している。このため、本調査観測では、1) 活断層の詳細位置・形状・活動性解明のための調査研究、2) 地震活動から見たプレート構造解明のための調査研究、3) 強震動予測のための調査研究として、3. 1) 地下構造等のモデル化、3. 2) 地表変形を含む強震動予測の高度化、の 4 つのサブテーマ研究グループを構築して、調査観測研究を進めるとともに、その実施に際して、関係自治体等と連携を図るとともに、調査観測成果を地域へ普及・還元する観点から、4) 地域連携勉強会、のサブテーマを設定した。

2 年目にあたる令和 6 年度は、各研究サブテーマにおける 1 年目の成果を踏まえて引き続き調査観測を計画・実行し、令和 6 年度報告書として取りまとめた。本調査観測最終年度の 3 年目にあたる令和 7 年度においては、過去 2 年間の成果の蓄積と新たに浮き彫りになってきた課題及び外部評価委員会の助言を踏まえて、サブテーマ間での情報共有を図りつつ、有機的に調査観測をさらに進展させるとともに、上記の課題解決に向けて成果の取り纏めを進める。

最後に、令和 6 年度の本調査観測を行うにあたり、調査対象地域である神奈川県及び関係市町機関の皆様には、調査観測の実施等に関して多大なご協力を頂いた。ここに記して感謝申し上げますとともに、引き続きのご理解・ご支援を賜りますようお願い申し上げます。